

平成19年度 香川県小学校教育研究会
国語部夏季研修会 研修 第 分科会 発表資料

1 研究テーマ

相手意識をもったコミュニケーション能力の育成
- 電話を使った会話を通して -

2 単元名 「電話で伝えよう」(4年)

3 はじめに

学習指導要領(国語)では、国語科の目標を

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊敬する態度を育てる。

ことと示し、コミュニケーション能力の育成にも重きをおいている。また、第3・4学年の(話すこと・聞くこと)の目標を

話すこと	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すこと
聞くこと	話の中心に気を付けて聞くこと

とし、系統性のある指導を目指している。

伝え合う力としては、言語的表現・非言語的表現があり、どちらも人間関係構築や生きる上に重要な手段である。しかし、現在、両方の表現のアンバランスさや言語表現が磨かれていないこと、非言語的表現の粗暴化短絡化が懸念されている。また、伝える手段として様々な通信手段の活用の仕方についても課題が出てきている。

【単元のねらい】

電話は、今や現代社会において欠かすことのできない通信手段である。4年生の児童にとっても、日常的で身近な伝達の手段である。携帯電話を持っている子も数名いる。しかし、相手の姿が見えず、音声だけでやりとりする電話で必要な事柄を伝え合うことは、児童にとって難しい。

そこで、本単元では、電話での伝え合うためのポイントを話し方と聞き方の両面から考え、実際に電話を使って伝え合う場を設定し、技術の定着を図ると共に相手意識を持ったコミュニケーションがとれるようにしたい。

【話し方と聞き方のポイント】

話し方	聞き方	その他
<p>話す内容を事柄ごとにメモにまとめる。 短く話す。 はっきり、ゆっくり話す。</p>	<p>大事なことをメモする。 聞き取れないときや分からないときは質問する。 繰り返しをする。</p>	<p>話し始めの仕方 丁寧な言葉遣い</p>

【メモの取り方】

見学やインタビューの実践により、メモをとる機会は多くもっている児童だが、電話でのメモは、より精選された筆記が必要になる。そこで、基本的なメモの取り方を指導したい。

伝言ゲームメモ例

用 件 の 題 (・・・について)	
項目名	
・ 内容	矢印
・	数値
項目名	記号化
・	
・	
項目名	
・	

箇条書き

キーワードを使って

夏休み 星を見る会 について
時
・ 8月24日 8時～9時
場所
・ 小学校の運動場
持ち物
・ 星座板
・ 理科のノート
・ 懐中電灯

実際に電話を使ったお知らせ

メモが箇条書きできることによって話し方も相手がメモをとりやすいうように項目ごとに話せるようになってきた。

また、事柄ごとに聞き返しができるようになったり、質問ができるようになってきた。

精選されたメモが精選された話し方を生み出す。

時間割の変更について
時
・ 明日の3時間目
内容
・ 社会 体育
水泳
持ち物
・ 水着セット
・ プールカード
・ 水に浮かべてあそぶ物

第4学年竹組国語科学習指導案

1 単元 「電話で伝えよう」

2 単元について

(1) 電話は、今や生活において欠かすことのできない通信手段である。4年生にとっても、日常的に使う身近な情報伝達の手段といえるであろう。

すでに児童は、電話を使って話すこと、受け答えをすることについては、ある程度の経験を重ねてきている。家に帰ってから友達の家遊びに行くときなどに、電話を利用して約束をして遊んでいる。しかし、相手に必要な事柄を正確に伝え合う問いとすることには、まだ十分ではないだろうし、経験の少ない。この学習を通して、音声だけでやりとりする電話で、相手に伝える難しさを知るとともに、相手にわかりやすく情報を伝えるための話し方、情報を正確に受け取るための聞き方を学ばせたい。

(2) 子どもたちは、「話す・聞く」の内容を5月単元「知らせたい、あんなこと、こんなこと」でスピーチすることを通して学習してきた。相手にわかりやすく話すためには、声の大きさ、話す速さ、間の取り方が大切であることを学習した。

しかし、頭では理解しているものの、実際に話してみると、技術不足でうまく伝わらなかったり、相手を意識した話し方ができなかったりする児童が多い。また、校内電話を利用している姿を見ると、自分の名前を告げ、こちらが話した内容について返事はするが、復唱をすることはない。

(3) 本単元では、日常生活での電話での話し方・聞き方の育成を意図している。教科書にある状況を参考に、電話で伝え合うときに注意すべき点について考え、学習したことが実際の生活でも使えるようにしたい。具体的に、話し方では、大事なことを落とさずに話すこと、聞き方では、メモをとりながら聞くこと、復唱すること、分からないときは質問すればよいことに気付かせる。その際、CDで音声を聞き取らせたり、話のやりとりを表記し、話すことと聞くことを色分けし提示したりする。話し方・聞き方の両方の立場で考えることで電話で情報を正確に伝えるための方法を学ばせたい。さらに、練習（伝言ゲーム）や実践（明日の予定を家庭にお知らせをする）をし、体験を通して電話で正しく伝え合う方法を身に付けさせたいと考えている。

3 単元の目標

電話で正しく伝え合うために、話し方や聞き方のポイントを考え、伝言ゲームや実践を通して、相手意識を持って伝え合おうとする。

4 単元の評価基準と学習活動における具体的評価基準

【単元の評価基準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
電話での伝え方に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。	電話で正しく伝え合うために大切なことを理解している。	電話で伝える状況に応じた話し方や聞き方ができる。

【評価基準の具体例】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
1 電話で伝え合う活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる。	1 話すとき・聞くときに注意するとよいことを理解している。 2 わかりやすく話そうとし、大事なことを落とさずに聞こうとしている。	1 丁寧な言葉遣いで話すことができる。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時間	主な学習活動	指導・評価	評価と方法
1	1 2 3 本時	学習のめあてをつかみ、教科書の場面状況を理解する。 教科書の場面状況から、電話での話し方・聞き方を知る。 電話で正しく伝え合うために大切なことを話し合ってみる。	電話で正しく伝え合う活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる。 話すとき、聞くときに注意するとよいことを理解している。 わかりやすく話そうとし、大事なことを落とさずに聞いている。	発言 行動観察 ノート
2	4	「伝言ゲーム」をする。	丁寧な言葉遣いで話すことができる。 学習した話し方・聞き方を使って「伝言ゲーム」ができる。	発言 行動観察 伝言メモ
3	時間 外	実際に明日の学校時間の予定変更点を知らせ合う。	学習した話し方・聞き方を使って予定変更を伝え合える。	伝言メモ 持ち物

6 本時の学習指導

- (1) 電話で相手に用件がうまく伝わらなかった例から、その原因を「話す」側と「聞く」側の2つの視点から話し合うことで、電話での伝え方に関心を持ち、相手意識を持ったコミュニケーションの取り方が分かる。

(2) 学習指導課程

学習活動と期待する意識の流れ	支援と評価
<p>1 前時の復習をし、場面を把握する。</p> <p>図書館に行くことで変更点があったよ。</p> <p>高山さんが坂田君と黒岩さんに連絡することになったね。</p> <p>電話で連絡する時には、丁寧な言葉で話すことが大切だよ。</p> <p>2 相手に電話で正しく伝えるために必要なことを考える。</p> <p>なぜ、二人は、 北図書館に行ってしまったのだろう。</p> <p>(1) 高山さんから坂田さんへの電話の様子から考える。</p> <p>高山さんは変更になった点を全部伝えているよ。</p> <p>丁寧な言葉で話しているよ。</p> <p>どうして、坂田さんは間違っただろう。</p> <p>(2) 坂田さんから黒岩さんのお母さんへの電話から考える。</p> <p>坂田さんは、中央図書館に変更になったことを言っていないな。</p> <p>坂田さんの聞き方に問題があったのではないかな。</p> <p>(3) 2つの場面の電話の様子を比べて考える。</p> <p>話す時には、短く区切りながら話すと良いな。</p> <p>聞き返すと、落とさず聞けるな。</p> <p>分からないことは、質問するとはっきりするな。</p> <p>3 電話で用件を伝え合うための大事なことをまとめる。</p> <p>大事なことを落とさず言う。</p> <p>聞く方も話す方もメモが大切だ。</p> <p>聞き方（聞き返し・質問）が必要だ。</p>	<p>・ 前時のワークシートを振り返らせ、場面を把握させることで、電話で連絡する必然性を確認させる。</p> <p>・ 登場人物5人の絵を提示し、場面設定を明確にさせる。</p> <p>・ 電話をかけることになった変更点を板書で確認させる。</p> <p>・ 中央図書館に集合しなかった2人の絵を動かさせながら示し、学習課題を明確に持たせる。</p> <p>・ 高山さんと坂田さんのやりとりを音声で聞かせ、坂田さんが北図書館に行った理由を探らせる。</p> <p>・ 音声だけでなく、会話を表記した文章を示し、高山さんは変更点を全部話していることを押さえる。</p> <p>・ 「変更になったことは全部伝えているかな。」と助言し、坂田さんが変更点を落としていることに気付かせる。</p> <p>・ 「なぜ坂田さんは、大事なことを言えなかったのだろう。」と発問し、聞き方の問題点に着目させる。</p> <p>・ 2つの電話の場面を比べることによって、聞き方の工夫を見つけさせる。</p> <p>（評価1）二人が間違っただ理由について、話し方や聞き方とつないで、自分の考えが書けたか。</p> <p>・ 「話し方」「聞き方」のそれぞれの大切なポイントを分けて板書し、まとめる。</p> <p>（評価2）電話で伝え合うときの大切なポイントを、実践に使うためにまとめることができたか。</p> <p>・ 次時の予告をし、実践への意欲を高める。</p>

7 授業から実践へ

【実際に電話を使った実践を通して】

実践に対して気をつけたこと

- ・ メモとくりかえしがきちんとできるようにしておく。
- ・ 保護者の協力を得る。
- ・ 電話をかけることができる時間帯を調査する。(3分の1は、教師から)
- ・ 話す内容に曖昧さを持たせる。しかも短く。(質問をさせるため)
- ・ 児童に必要感と興味を持てる内容にすること。しかも失敗が許されること。

児童の感想より

電話をかけるとき、ドキドキしました。さんがほんとにでてくれるか、うまく伝わるかわかりませんでした。

水であそべる物と言ったとき「それ何」と聞きました。「うきわとかペットボトル」と答えました。「ほんとうに明日遊ぶんだよ。」と言いました。

くりかえしが　　さんはできていました。

メモを書くのがたいへんでした。3回も聞き返しました。さんもゆっくり言ってくれました。

横に母さんがいたのでいっしょにメモをとってくれました。ぼくがくり返しをすると、母さんも書きました。

持ち物が3つあったので点を3つ打ちました。一番さいごがこまりました。

電話で伝え合った翌日、子どもたちに昨夜の様子や思ったことを書いてもらった。多くの子が緊張した様子を書いてきた。メモを見ながら自分もメモが大変だったからゆっくり、区切って話したそうだ。また、相手はどうだったかを書いてきた。特に「水で遊べる物」について互いに情報を確かめ合ったようだ。中には、浮き輪を買ってもらった家庭もあった。

相手意識を持たせるためには、

用件を伝える必要感

困難だという意識を体感すること

あいまいさを互いに埋めようとする場

があるなと感じた。

また、「・・・ありがとうございました」「お休みなさい」等々、相手に対する丁寧な言葉遣いや心遣いができる児童もあり、気持ちの良い実践だった。

電話の向こうで必死にメモをとる鉛筆の音が聞こえる中、真剣に聞き取ろうとする子どもたちの様子が目に見えるようであった。普通の教室の中でも・・・。